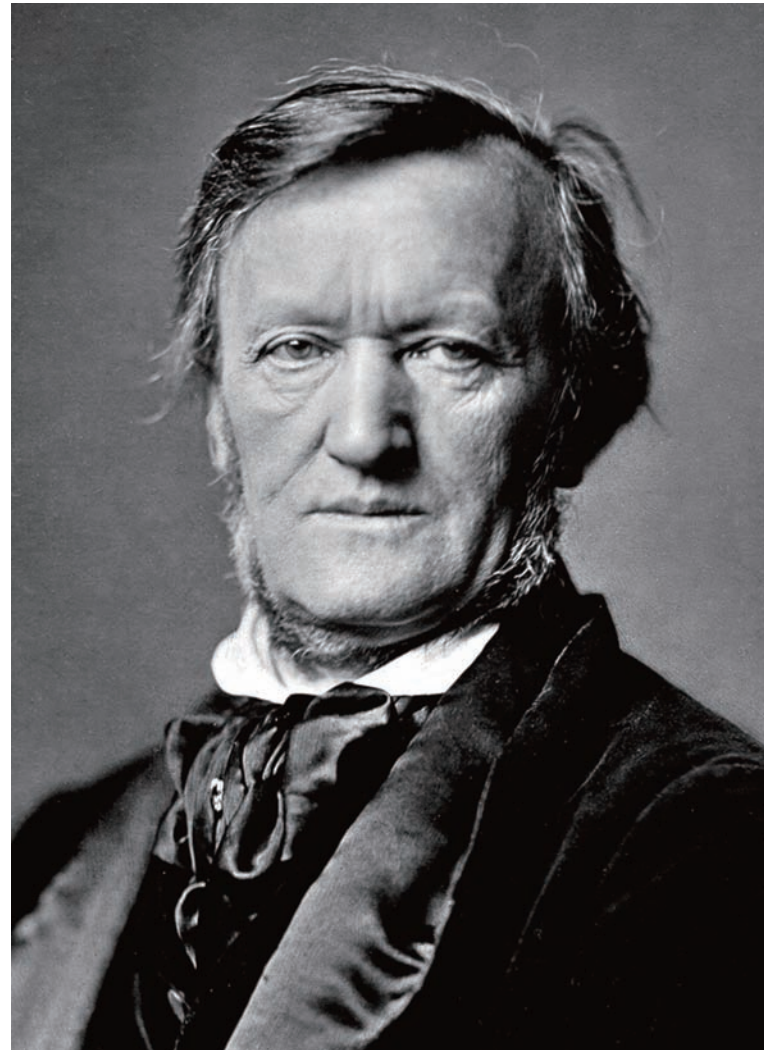


Nihonbashi Opera Tokyo 2026

RICHARD WAGNER

DER RING DES NIBELUNGEN



Prologue and Four Finales

Das Rheingold, Die Walküre
Siegfried, Götterdämmerung

Sunday, May 31, 2026 Nihonbashi Theater Tokyo

日本橋オペラ 2026

舞台祝祭劇『ニーベルングの指環』

全曲世界初演&バイロイト音楽祭誕生150周年記念

リヒャルト・ワーグナー



序章と4つのフィナーレ

楽劇「ラインの黄金」 第1場 & 第4場

楽劇「ワルキューレ」 第3幕 第3場

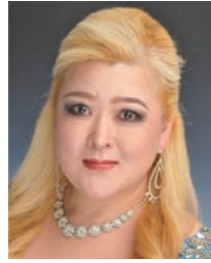
楽劇「ジークフリート」 第3幕 第3場

楽劇「神々の黄昏」 第3幕

ジークフリートの葬送行進曲

ブリュンヒルデの自己犠牲

2026年5月31日(日) 日本橋劇場



福田祥子

日本橋オペラ研究会(中央区社会教育団体)会長

一般社団法人日本橋オペラ研究会理事長

ご挨拶

今日は、日本橋オペラ 2026 ワーグナー 舞台祝祭劇『ニーベルングの指環』公演にご来場いただき、誠にありがとうございます。

今年 2026 年は、クラシック音楽界、とりわけオペラの歴史において極めて重要な節目となります。1876 年、リヒャルト・ワーグナーが自身の理想を実現するために創始したバイロイト音楽祭において、楽劇『ニーベルングの指環』の全曲世界初演が行われてから、ちょうど 150 年という記念すべき年にあたります。現在、この偉大なアニバーサリーを祝い、世界各地で記念公演が開催されていますが、ここ日本において、この記念すべき年に、この記念すべき作品を上演するのは、私共「日本橋オペラ」だけです。

『ニーベルングの指環』は、「ラインの黄金」「ワルキューレ」「ジークフリート」「神々の黄昏」の四つの楽劇から成る、人類史上最長かつ最大のオペラです。全曲上演には四日間、合計演奏時間は 15 時間を超えます。その膨大さと深遠さゆえ、完全な形での上演は容易ではありません。本日の公演では、物語の始まりである「ラインの黄金」の冒頭場面、そして各四部作のフィナーレを繋ぎ合わせることで、この壮大な宇宙の全体像を一挙に体感していただけます。

かつて、ワーグナーの作品は日本人にとって、あまりに高い壁でした。難解なドイツ語、複雑に絡み合う楽想、そして強靱な体力を要求される歌唱。ほんの少し前まで、私たちの師匠世代は「日本人にワーグナーは無理だ」と口を揃えていたものです。しかし、2010 年に指揮者の佐々木さんと共に『ワルキューレ』に挑み、翌年に『神々の黄昏』を成し遂げた時、私たちは確信しました。真摯に向き合えば、必ず道は開けるということを。その情熱が、現在の日本橋オペラ研究会の設立へと繋がったのです。高い壁だと感じていたものは、実は自分自身の中にあった「限界という名の思い込み」に過ぎませんでした。

ワーグナーは神々や英雄の物語を借りて、実は「金銭(黄金)と愛の対立」という、19 世紀資本主義社会の本質を描き出しました。それは初演から 150 年を経た今日、私たちが直面している格差や紛争の根源とも見事に重なります。ワーグナーを知らずとも人生は過ごせるかもしれませんが、彼の音楽に触れ、その哲学に触れることで、皆様の人生の枝葉がより豊かに、より深く広がっていくことを願ってやみません。

最後になりますが、次回日本橋オペラ公演についてご案内いたします。本年 11 月 21 日、同じく日本橋劇場にて、イタリアの作曲家モンレオーネの傑作『レンブラント～夜景』(日本初演)と、レオンカヴァッロの名作『パリアッチ』との二本立てという、野心的な舞台となります。

本日の舞台が、皆様にとってワーグナーという巨大な山脈への新たな第一歩となりますよう。どうぞ最後までごゆっくりお楽しみください。

謹告

ピアニストで日本橋オペラ研究会顧問の田隅靖子先生は、去る令和 8 年 2 月 26 日脳梗塞のため京都市内の病院にて逝去されました(享年 87)。

先生は京都市立芸術大学教授や京都コンサートホール館長などの要職を歴任され、京都府文化賞特別功労賞を受賞されるなど、我が国の音楽文化の発展に多大なる足跡を残されました。

当会の公演には、毎回のように京都から駆けつけ、温かいご指導とご支援を賜りました。ここに生前のご厚誼を深く感謝し、謹んで哀悼の意を表します。

一般社団法人日本橋オペラ研究会



一般社団法人日本橋オペラ研究会顧問

馬淵明子氏：美術史家、日本女子大学名誉教授、ジャポニズム学会会長。これまで、国立西洋美術館館長、

独立行政法人国立美術館理事長、文化審議会委員、日本女子サッカーリーグ理事長などを歴任

高松富二子氏：国際ソロブチミスト宝塚会長、高松コンストラクショングループ取締役名誉会長高松孝之氏夫人

岡田恭芳氏：医師、医学博士、医療法人愛育会理事長、聖マリアンナ医科大学臨床教授

シュテファン・メラウ氏：ピアニスト・指揮者、前ウィーン国立音楽大学教授。ウィーン国際ピアニスト協会会長

木村 啓氏：弁護士、ニューヨーク州弁護士、弁護士法人第一法律事務所パートナー

福田祥子 (Shoko Fukuda) 演出・ドラマティックソプラノ／ブリュンヒルデ役

大阪音楽大学ピアノ科卒業。大阪芸術大学大学院声楽専攻修了。東京二期会オペラ研修所本科首席修了、優秀賞受賞。これまで、神々の黄昏、トリスタンとイゾルデ、アイダ、椿姫、オテッロ、蝶々夫人、トゥーランドット、トスカ、オネーギンなど 30 作品以上に主役級の配役で出演。『圧倒的にして鮮烈な歌声と存在感。生まれながらのブリュンヒルデ』(音楽現代)『輝かしい高音』(音楽の友)と批評を受ける。本格的ワーグナーソプラノでありながら、ヴェルディ、プッチーニといったイタリアオペラまで、広範囲のレパートリーを有する、日本人としては稀有の存在。ウィーンとバイエルンの両国立歌劇場で研修を受け、スタラ・ザゴラ国立歌劇場(ブルガリア)などに度々出演、絶賛されている。また、世界中でリサイタルやオーケストラと共演をしている。近年では、日本橋オペラ「日本初演のオペラ」シリーズに、主役・演出家・製作者として参画、学術的にも高く評価されている。さらに国際音楽コンクールの審査員、また「お母さんコーラス全国大会」の選考委員をつとめるなど、活躍の場を広げている。東京二期会、関西二期会各会員。一般社団法人日本橋オペラ研究会理事長。

佐々木 修 (Osamu Sasaki) / 指揮

青森県出身。武蔵野音楽大学卒業。オーストリア政府奨学生。カラヤン、チェリビダッケなどの巨匠に師事。モーツァルトウム音楽大学指揮科最優秀卒業。同大学講師・常任指揮者をつとめる。1979 年カラヤン国際指揮者コンクール入賞。1982 年東洋人として初めてザルツブルク国際モーツァルト週間で指揮「心から自然でしなやか、新鮮なモーツァルト指揮者」と絶賛され、国際モーツァルトウム財団よりパウムガルトナーメダルを授与される。1984 年ベルリン・ドイツ響を指揮してドイツデビュー。帰国後、日本各地のオーケストラや合唱を指揮。また NHK-FM 等のパーソナリティ、タモリの音楽は世界だ!等の音楽番組制作、映像・CD・WEB 制作、AI 特許など、マルチなタレントで活躍。世界初のモバイルによる健康管理サイト「ルナルナ」の創始者でもある。(株)マエストロ代表取締役。日本橋オペラ常任指揮者。一般社団法人日本橋オペラ研究会理事。

植田克己 (Katsumi Ueda) ピアノ (ワルキューレ、ジークフリート、神々の黄昏)



札幌生まれ。東京藝術大学大学院修了後、ドイツのデトモルト音楽大学とベルリン芸術大学に留学。第38回日本音楽コンクール入選、第17回ロン＝ティボー国際コンクール第2位大賞などを受賞。NHK交響楽団やベルリン交響楽団、東京都交響楽団、札幌交響楽団など、内外のオーケストラとの共演や室内楽で国際的に活躍。1986年より20年間にわたり開催した27回の「植田克己ベートーヴェン・シリーズ」では、独奏曲、室内楽曲、歌曲を網羅した。東京藝術大学名誉教授、上野学園短期大学特任教授として後進の育成に尽力。ジュネーヴ、ケルン、仙台、浜松、高松などの国際音楽コンクールを始め、日本音楽コンクールなど、国内外のコンクールで審査委員を務める。現在仙台国際音楽コンクール運営委員長、クロイツァー記念会会長、日本ショパン教会副会長。

範島啓介 (Keisuke Haijima) ピアノ (ラインの黄金、神々の黄昏)



1981年、埼玉県生まれ。東京大学法学部卒業、東京大学法科大学院修了。都内で弁護士として執務する傍ら、デュオ、室内楽、歌曲伴奏など多彩な演奏活動を行う。2016年に1stCD「シューマン&リスト」、2020年に2ndCD「Transcribed Bach」をリリース。2023年4月に大脇滉平編曲によるイザイの無伴奏ヴァイオリンソナタのピアノ独奏版を収録したCD「イザイ・オン・ピアノ」をリリースし、レコード芸術誌特選盤に選定されるほか、「最近これだけ泣かされたCDもない」(『無線と実験』2023年7月号)など好評を博す。2025年、大平倍大(テノール)とのシューマンの歌曲集のCDをリリースし、『stereo』誌特選盤、レコード芸術 Online にて準推薦盤に選定される。

又吉秀樹 (Hideki Matayoshi) バリトン / アルベリヒ役 (ラインの黄金)



東京藝術大学卒業。同大学大学院を首席にて修了。第40回イタリア声楽コンクール優勝、ミラノ大賞受賞。スポレート実験歌劇場及びカルロフェリーチェ劇場の研修員として研鑽を積む。2019年ジェノヴァ、カルロフェリーチェ劇場主催の子どものための公演「ドン・パスクアレ」でマラテスタ役を演じるなど、欧州各地でコンサートやオペラに出演。国内では二期会公演「こうもり」アイゼンシュタイン役、「天国と地獄」にジュピター役他、「ドン・ジョヴァンニ」ドンジョヴァンニ役、「魔笛」パパゲーノ役など多数のオペラに出演。YouTubeチャンネル「それいけ！クラシック」メンバー。福生市民会館音楽監督。近江八幡市文化芸術アドバイザー。

ジョン・ハオ / (Zhong Hao) バス・バリトン / ヴォータン役 (ラインの黄金、ワルキューレ)



中国沈陽出身。東京藝術大学大学院オペラ専攻修士課程終了。藝大創立120周年記念オペラ公演「ラ・ボエーム」のコッリーネ役で日本におけるオペラデビュー。これまでドン・カルロ、セビリアの理髪師、フィガロの結婚、魔笛、トゥーランドット、アイーダ、マクベス、トスカ、リゴレットなどで、重要な役を演じた。二期会創立60周年記念ナブッコ(ザッカーリア役)に出演、高く評価された。第38回イタリア声楽コンクール・シエナ部門第1位、シエナ大賞受賞。2008年首相官邸で開催された中国胡錦濤国家主席を迎えるの晩餐会で日本と中国の歌を披露。東京音楽大学非常勤講師、洗足学園音楽大学非常勤講師。東京二期会会員。

村上敏明 (Toshiaki Murakami) テノール / ジークフリート役 (ジークフリート)



国立音楽大学声楽学科卒業。文化庁在外研修員等の奨学金を得て、2001年から2007年までイタリアに留学。イタリアオペラを中心に70役以上の幅広いレパートリーを有し、新国立劇場・藤原歌劇団や、イタリアの劇場・フェスティバル等で、国際的に活躍している。15の国際声楽コンクールで優勝または上位入賞。国内でも2004年に、第40回日伊声楽コンクール第1位、第35回イタリア声楽コンクール・シエナ大賞受賞。2012年より12年連続でNHKニューイヤーパーオペラコンサートに出演。第16回五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。2025年4月より東京二期会会員。八王子コミュニティオペラ芸術監督。人気実力ともに日本を代表するテノール歌手として、活躍を続けている。

金山京介 (Kyosuke Kanayama) テノール / ローグ役 (ラインの黄金)



島根県出身。国立音楽大学声楽科首席卒業。卒業時に矢田部賞受賞。東京藝術大学大学院オペラ科修了。東京二期会『魔笛』(宮本亞門演出)タミーノ役にて二期会オペラデビュー。以後、日生劇場『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオ、『セヴィリアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵、『後宮からの逃走』ベルモンテ、二期会『メリー・ウィドー』カミーユ、『こうもり』『トリスタンとイゾルデ』若い水夫の声、新国立劇場『椿姫』ガストン子爵役等に出演。昨年には日本橋オペラ「3人のピント」(アジア初演)ドン・ガストン役にて出演し好評を博した。二期会会員。

寺田功治 (Koji Terada) バリトン / ドンナー役 (ラインの黄金)



東京音楽大学声楽演奏家コース卒業後、英国ギルドホール音楽演劇学校大学院修士課程オペラコース修了。ネザールランド・オペラ・スタジオ修了。小澤征爾音楽塾やオザワ・キネン・フェスティバルに出演。ウェックスフォード・フェスティバル・オペラではプッツ《サイレント・ナイト》英国中佐役などで出演した。近年は小林研一郎指揮《第九》のソリストを務め、本年もコバケンとその仲間たちオーケストラ、日本フィルとの共演が予定されている。第11回コンセル・マロニエ21第1位、第7回エレナ・オブラストワフ国際声楽コンクール第3位、第85回日本音楽コンクール第2位ほか国内外のコンクールで多くの賞を授受している。

町村 彰 (Akira Machimura) テノール / フロー役 (ラインの黄金) / ジークフリート役アンダー



東京大学大学院修士課程修了。永井宏氏に指揮法を、青木洋也、大山大輔、T. プファイファー、田口昌範の各氏に声楽を学ぶ。過去にJ.S. バッハ『マタイ受難曲』『クリスマス・オラトリオ』福音史家、W.A. モーツァルト『コジ・ファン・トゥッテ』ドン・アルフォンソ、『レクイエム』テノールソリストなどを演奏。「ごくつぶしまكرون」としてM-1グランプリ2026一回戦出場予定。

伊藤いずみ (Izumi Ito) ソプラノ / ヴォークリンデ役 (ラインの黄金)



洗足学園音楽大学卒業。日本オペラ振興会オペラ歌手育成部第41期生修了。オペラではこれまでに《ヘンゼルとグレーテル》眠りの精役、《魔笛》侍女II役、《ジャンニ・スキッキ》ラ・チェスカ役、《修道女アンジェリカ》托鉢修道女II役、《ドン・ジョヴァンニ》ドンナ・アンナ役、《コジ・ファン・トゥッテ》デスピーナ役及びドラベッラ役、《トスカ》牧童役などで出演。藤原歌劇団準団員・日本オペラ協会準会員。

渡辺愛理 (Airi Watanabe) ソプラノ / ヴェルグンデ役 (ラインの黄金)



国立音楽大学声楽専修卒業。昭和音楽大学大学院修士課程(オペラ)修了。日本オペラ振興会第42期修了。「ドン・パスクアレ」ノリーナ、「フィガロの結婚」伯爵夫人などに出演。2025年は和歌山県「イオン de Opera」等、全国で活動。大前恵子、矢田部一弘、柴山昌宣各氏に師事。藤原歌劇団準団員、日本オペラ協会準会員。東京都出身。

窪 瑤子 (Yoko Kubo) メゾ・ソプラノ / フロスヒルデ役、フリッカ役 (ラインの黄金)



日本大学芸術学部卒業。東京音楽大学大学院修了。第57期二期会オペラ研修所修了。スペイン音楽国際講習会にスペイン政府の奨学金を得て参加。第48回新潟県音楽コンクール声楽部門最優秀賞。山形交響楽団とソリストとして共演。劇団東俳、各音楽教室で後進の指導にあたる。二期会スペイン音楽研究会会員。二期会準会員。

『ニーベルングの指環』 主な登場人物

R=Das Rheingold(ラインの黄金), W=Die Walküre(ワルキューレ)
S=Siegfried(ジークフリート), G=Göttergämmerng(神々の黄昏)

- ヴォークリンデ(R,G)／伊藤いずみ：ラインの水の精霊
- ヴェルグンデ(R,G)／渡辺愛美：ラインの水の精霊
- フロスヒルデ(R,G)／窪瑤子：ラインの水の精霊

清らかなラインの川底で、光り輝く「黄金」を慈しみ守る三姉妹。魚のようにしなやかに泳ぎ、その歌声は水のせせらぎのように美しい。彼女たちは悪意なき無邪気さゆえに、醜い小人アルベリヒを嘲笑し、それが世界を揺るがす呪いの引き金となった。物語の終幕、炎に包まれた指環を再びその手に取り戻し、呪われた黄金をラインの底へと優しく還す、円環する運命の番人。

● アルベリヒ(R,S,G)／又吉秀樹：愛を捨て、世界を呪った闇の支配者
地下世界に住まうニーベルング族の長。ラインの娘たちに愛を拒絶された屈辱から、「愛の断念」という凄絶な代償を払い、聖なる黄金を奪取した。資本主義的・物質的欲望の象徴。そこから鑄造された「全能の指環」によって世界をも支配せんとする。ヴォータンの狡計によって指環を奪われた際、怒りと怨念を込めて放った「持つ者に死と破滅をもたらす呪い」は、神々と英雄の時代を終焉へと導く。まさに『指環』という壮大な悲劇の「影の主役」といえる。

● ヴォータン(R, W, S)／ジョン・ハオ：奔放なる神々の父
「契約の槍」を手に世界の秩序を司る最高神でありながら、その本性は情熱的かつ奔放。正妻フリッカの目を盗み、あちこちで浮名を流すドン・ジョヴァンニ的な女好きの一面を持つ。知恵の女神エルダとの間にブリュンヒルデを、人間の女との間に英雄ジークムントらをもうけるなど、自らの野望と欲望のために各地に血脈を残した。その旺盛な生命力と女性問題が、常に神々の世界に波乱と悲劇の種を撒き散らす。

● フリッカ(R,W)／窪瑤子：最高神をも震え上がらせる「正妻のプライド」
神々の王妃であり、婚姻の神聖さを司る女神。自由奔放な夫ヴォータンの浮気性に常に目を光らせ、神としての体面を汚す行為を決して許さない。論理的で鋭い言及によって夫を追い詰め、その野望を挫くことさえいとわない彼女は、まさにヴォータンにとって唯一にして最大の障壁。

● ローゲ(R)／金山京介：知略と舌先で世界を操る「神界のアドバイザー」
主神ヴォータンに仕える「火の神」。策士にして、異質な「半神半人」。神々の列席にありながら、その本質は冷徹な傍観者である。形を変え、実体を掴ませぬ火のごとく、ある時は巧みな弁舌で巨人たちを幻惑し、ある時は狡知を巡らせて神々の危機を救う。しかし、その瞳の奥には、自らを守護者と仰ぐ神々の傲慢さを冷笑し、やがて来るべき終焉の炎を待ち望む虚無を宿している。

● ドンナー(R)／寺田功治：暗雲を切り裂く轟雷の主
神々の陣営で最も強靱な肉体と力を誇る、勇猛果敢な雷神。巨大なハンマーを振るい、荒れ狂う嵐と雷鳴を自在に操る。神々が不安の霧に包まれた際、彼はその怪力で大地を叩き、淀んだ空気を一掃する嵐を呼び起こした。激しい雷雨の後に光を導き、虹の橋を架けるための「清め」を司る、神々の守護者たる武神である。

● フロー(R)／町村 彰：天に虹を架ける幸福の主
ヴォータンに仕える、若き幸福の神。神々の新たな居城「ヴァルハラ」が完成した際、天と地を結ぶ巨大な虹の橋を架け渡し、神々の入城を先導する大任を果たす。その指先から放たれる色彩は、神々の権威が頂点に達したことを告げる祝祭の光であり、どんよりとした暗雲を払い、世界を黄金の輝きで満たす希望の象徴である。

● ブリュンヒルデ(W,S,G)／福田祥子：愛に殉じた戦乙女
『ニーベルングの指環』の中心人物。主神ヴォータンと知恵の女神エルダの娘であり、ワルキューレ(戦乙女) 9人姉妹の長女として父の意志を体現する存在。ヴォータンにとって最愛の娘だったが、英雄ジークフリートとの愛を選んだことで神の座を追われる。陰謀と裏切りに翻弄され、最期は燃え上がる炎の中でジークフリートの遺体に身を投じる。

● ジークフリート(S,G)／村上敏明：恐れを知らぬ伝説の英雄
主神ヴォータンの血を引く、至高の戦士。双子の兄妹ジークムントとジークリンデの禁断の愛から生まれ、数奇な運命により小人ミーメの手で育てられた。父から受け継いだ伝説の折れた剣を自ら鍛え直し、大蛇ファフナーを討伐。呪われた指環とニーベルングの宝を手に入れる。運命の乙女ブリュンヒルデとの愛に燃えながらも、最後は逃れられぬ悲劇の中でその生涯を閉じる。

● ハーゲン(G)／寺田功治：破滅の淵で叫ぶ執念の化身
『ニーベルングの指環』の最終場面で、世界を浄化する炎が燃え広がる中、彼は川底へ沈みゆく指環を追い、水底へと消えていく。最期の言葉「指環を返せ!」は、楽劇四部作を貫く「所有」というテーマの虚しさを象徴している。神々が滅び、愛が自己犠牲によって完結する傍らで、彼は最後まで「愛」を拒絶し「権力(指環)」に固執した。その叫びと共に彼がラインの川底へ引きずり込まれとて、黄金はようやく元の場所へと還り、世界の浄化が完了する。



本日出演しない主な登場人物

● ワルキューレ(W)：戦死した英雄たちの魂を馬に乗せて運んでくる戦乙女。主神ヴォータンの9人の姉妹たち。この長女がエルダから生まれたブリュンヒルデで、父の最愛の娘。他の8人は、ヴァルトラウテ(W,G)、ゲルヒルデ、オルトリンデ、シュヴェルトライテ、ヘルムヴィーゲ、ジークルーネ、グリムゲルデ、ロスヴァイセ。

● エルダ(R, S)：知恵の女神であり、大地の母。ヴォータンとの間にブリュンヒルデをもうけた。

● フライア(R)：青春の女神。神々に不老不死を与える「黄金のリンゴ」の管理人。

● ジークムント(W)：ヴォータンが人間との間に作った息子で、ジークリンデの双子の兄。

● ジークリンデ(W)：ジークムントの双子の妹であり、フンディングの妻。幼い頃にさらわれ、望まぬ結婚を強いられて絶望の中にいた。ジークムントとの間にジークフリートを産む。

● フンディング(W)：ジークリンデを略奪して妻にした屈強な戦士。

● ファーゾルト(R)：巨人兄弟。神々の城ヴァルハラを建てた代償としてフライアを連れ去る。

● ファーフナー(R)：巨人兄弟。ファーゾルトを殺して指環を奪い、大蛇に変身して財宝を守るが、後にジークフリートに倒される。

● ミーメ(R, S)：地下世界に住まうニーベルング族。アルベリヒの弟。ジークフリートを育てる。

● ノルン(G)：運命を司る三人の女神。エルダの娘。世界樹の根元で「運命の綱」を紡ぐ。

● グンター(G)：ライン河畔のギービヒ家の当主。

● グートルーネ(G)：ギビヒ家の王女。グンターの妹。忘却の薬でジークフリートを誘惑し、ジークフリートと偽りの結婚をする。



挿絵:アーサー・ラッカム (イギリス) 1867-1939

楽劇『ラインの黄金』あらすじ (黒枠が本日上演する部分です)

物語は、深いラインの川底から始まる。川底では、ラインの乙女たちが父より託された「ラインの黄金」を無邪気に守りながら泳いでいる。そこへ、地底に住むニーベルング族の小人アルベリヒが現れ、乙女たちの美しさに惹かれて言い寄る。しかし、乙女たちは醜いアルベリヒを嘲笑い、翻弄する。屈辱に震えるアルベリヒの眼に、朝日を浴びて輝く黄金が飛び込む。乙女たちは不用意にも、「この黄金を指環に鍛え上げた者は、世界を支配する力を得る。ただし、そのためには愛を永遠に呪い、放棄しなければならない」という秘密を明かしてしまう。愛を求めて拒絶されたアルベリヒは、絶望と怒りのあまり愛を呪い、黄金を奪い去る。川底は暗闇に包まれ、乙女たちの悲鳴が響き渡る。

一方、山頂では神々の長ヴォータンが、巨人兄弟に造らせた神々の居城「ヴァルハラ」の完成を喜んでいた。しかし、その報酬として妻フリッカの妹、美の女神フライアを巨人に渡すという無謀な約束を交わしていた。若さを保つ「黄金のリンゴ」を管理するフライアが連れ去られれば、神々は老いて滅びてしまう。ヴォータンは知恵の神ローゲを呼び出し、解決策を練る。ローゲは、アルベリヒが黄金を指環に変え、莫大な財宝を築いていることを伝える。これを聞いた巨人は、フライアの代わりにその財宝を渡すよう要求する。ヴォータンとローゲは地底ニーベルハイムへ向かい、策を講じてアルベリヒを捕らえる。地上へ引き立てられたアルベリヒは、自由の身と引き換えに全ての財宝と、そして命よりも大切な「指環」を奪われる。全てを失ったアルベリヒは、凄まじい執念で「この指環を持つ者には死の呪いが降りかかり、持たぬ者は羨望に身を焦がすだろう」と呪いをかけ、姿を消す。巨人に財宝を渡す際、指環だけは手放したくないヴォータンだったが、知恵の女神エルダの警告を受け、ついに指環を差し出す。すると直後に、呪いは現実となる。指環の所有権をめぐる巨人兄弟が殺し合いを始め、兄ファフナーが弟を撲殺する。

凄惨な兄弟殺しを目の当たりにし、ヴォータンは指環がもたらす呪いの恐ろしさに戦慄する。しかし、そびえ立つヴァルハラ城の威容が彼の心を捉える。雷神ドンナーがハンマーを振り下ろして雷光を呼び寄せ、辺りを覆っていた霧を払うと、幸福の神フローが城へと続く虹の橋を架け渡す。神々が意気揚々と橋を渡ろうとする中、半神半人の火の神ローゲだけは一步退き、冷笑を浮かべる。彼は、自らの知恵で神々の危機を救いながらも、知性を欠いた神々の傲慢さに呆れ、「彼らは滅びへと急いでいるのだ」と、いずれ訪れる神々の没落を皮肉っぽく予言する。一行が橋を進むと、はるか深い川底から、黄金を失ったラインの乙女たちの悲しげな嘆きが響いてくる。「黄金を返して」と訴えるその声は、神々の栄光に冷や水を浴びせる。ヴォータンは「指環の呪い」という不穏な影と、ラインの乙女たちへの負い目を背負いながらも、神々の威信を示すべく、荘厳な音楽に包まれて新城ヴァルハラへと入城していく。

楽劇『ワルキューレ』あらすじ 第1幕：運命の出会い

激しい嵐の中、見知らぬ民家に命からがら逃げ込んだ男がいた。名はジークムント。家の主であるフンディングの妻ジークリンデは、傷ついた彼を介抱するうちに、互いに強く惹かれ合う。帰宅したフンディングは、ジークムントが自分の敵の一族であることを悟るが、宿の掟に従い一夜の宿を貸し、翌朝の決闘を宣言する。その夜、ジークリンデはジークムントに、かつて老人がトネリコの樹に突き刺した、誰も抜くことができない剣の存在を教える。実は二人は生き別れた双子の兄妹であり、老人の正体は主神ヴォータンだった。ジークムントは剣を抜き放ち「ノートゥング(苦難の剣)」と名付け、二人は愛を誓って夜の闇へと逃げ出す。

第2幕：神の葛藤と断罪

ヴォータンは、自分の血を引くジークムントをフンディングとの決闘で勝利させようと考え、愛娘のワルキューレ、ブリュンヒルデに彼を加護するよう命じる。しかし、ヴォータンの妻であり結婚の守護神であるフリッカが猛反対する。彼女は「不倫と近親相姦を犯したジークムントを助けることは神の法に背く」と夫を糾弾する。自らが作った「掟」に縛られたヴォータンは絶望し、ブリュンヒルデにジークムントを死に追いやるよう命令を翻す。ブリュンヒルデは最初、父の命に従おうとするが、ジークムントのジークリンデに対する献身的な愛に心を打たれ、独断で彼を助ける決意をする。しかし、決闘の最中にヴォータン自らが介入し、ノートゥングを砕く。ジークムントは討たれ、ブリュンヒルデは砕けた剣の破片とジークリンデを連れて逃走する。

第3幕：ワルキューレの騎行と別れ

ワルキューレたちが集う岩山に、ブリュンヒルデが逃げ込んできて。彼女は、ジークリンデの胎内に宿る子が未来の英雄「ジークフリート」であることを告げ、彼女を安全な森へ逃がす。

追いついたヴォータンは激怒し、愛娘ブリュンヒルデに「神格の剥奪」と「追放」という厳しい罰を言い渡す。彼女はただの女として岩山で眠りにつき、最初に目覚めさせた男の妻にならねばならないという過酷な運命を告げられる。ブリュンヒルデは、自分の行動は父の本心を汲んだものであったと必死に訴え、せめて「恐れを知らぬ英雄」だけが自分を救い出せるよう、岩山の周囲を炎で囲ってほしいと懇願する。娘の深い愛に心を動かされたヴォータンは、彼女の眼にロづけをして眠りにつかせると、火の神ローゲを呼び出し、岩山を激しい炎の壁で包み込み、「わが槍の先を恐れる者は、この火を越えることはかなわぬ」と訣別の辞を唱える。愛する娘との永遠の別れを惜しみながら、主神は孤独に去り、物語は次代の英雄への希望を残して幕を閉じる。



楽劇『ジークフリート』あらすじ 第1幕：剣の再铸造

舞台は深い森の中。かつて英雄ジークムントとジークリンデの間に生まれたジークフリートは、ニーベルング族の小人ミーメの手で育てられた。ミーメの目的は、ジークフリートに大蛇(に変身したファフナー)を倒させ、指環と宝物を独占することであった。ジークフリートは、自分の出自と、父の遺品である折れた聖剣「ノートゥング」の存在を知る。ミーメには直せなかったこの剣を、ジークフリートは自ら鍛え直し、一振りでも金床を真っ二つにするほどの鋭さを取り戻した。



楽劇『ジークフリート』第2幕：大蛇退治と「小鳥の予言」
 ジークフリートはミーメに連れられ、ファフナーの洞窟へ向かう。彼は恐れを知らず、見事に大蛇を退治した。返り血を浴びたことで小鳥の言葉が理解できるようになり、また剣も通さぬ不死身の皮膚を得た（背中的一点を除いて）。小鳥の忠告に従い、ジークフリートは洞窟から「指環」と「隠れ頭巾」を持ち出す。さらに、自分を殺そうと企んでいたミーメの殺意を見抜き、彼を返り討ちにする。孤独を感じるジークフリートに、小鳥は「炎に包まれた岩山で眠る美しい乙女ブリュンヒルデ」の存在を教えた。

第3幕：目覚め
 山へ向かうジークフリートの前に、神々の長ヴォータン（放浪者）が立ちはだかる。しかし、新時代の象徴であるジークフリートは、旧時代の象徴であるヴォータンの槍をノートゥングで粉碎する。炎の壁を突破したジークフリートは、眠りにつくブリュンヒルデを発見する。初めて「恐れ」を知った彼は、口づけて彼女を目覚めさせた。元女神であるブリュンヒルデは、神性を失った不安に戸惑うが、ジークフリートの情熱に打たれ、二人は輝かしい愛の陶酔の中で結ばれる。

楽劇『神々の黄昏』あらすじ

序幕～第1幕：裏切りと忘却

運命の女神たちが世界の終焉を予感する中、ジークフリートはブリュンヒルデに愛の証として「指環」を預け、新たな旅に出る。彼はライン河畔のギビヒ家を訪れるが、そこでは指環を狙うハーゲン（アルベリヒの息子）が罫を仕掛けていた。ジークフリートは魔法の薬を飲まされ、ブリュンヒルデの記憶を失い、家主グンターの妹グートルーネを愛するようになる。さらに、変身してグンターになりすまし、ブリュンヒルデを力づくで連れ去り、グンターの妻にしようとした。

第2幕：復讐の誓い

ギビヒ家の館で、ジークフリートとグートルーネ、グンターとブリュンヒルデの二重結婚式が執り行われる。再会したジークフリートが自分を忘れ、別の女性と結婚しようとしていることに驚愕し、憤怒するブリュンヒルデ。彼女はジークフリートの指に自分の指環があるのを見て、彼が裏切り者であることを確信した。彼女はハーゲンと共謀し、ジークフリートを殺害する決意を固める。彼女は、彼の唯一の弱点が「背中」であることをハーゲんに漏らしてしまった。

第3幕：世界の終焉

狩りの途中、記憶を取り戻したジークフリートを、ハーゲンが背後から槍で刺し殺した。ジークフリートはブリュンヒルデの名を叫びながら息絶える。

彼の遺体は館に運ばれ、ブリュンヒルデはすべての真実を悟る。彼女はジークフリートを火葬する薪に火をつけ、自らも馬と共に炎の中へ飛び込んだ。この火は天に燃え広がり、神々の居城ヴァルハラを焼き尽くした。同時にライン川が氾濫し、ハーゲンは指環を追って溺死し、指環は元の持ち主であるラインの乙女たちのもとへ戻った。世界は浄化され、神々の時代は終わり、愛による救済の予感とともに幕が閉じる。



日本橋オペラ2026
 全曲世界初演 & バイロイト音楽祭創立150周年記念
 作曲・台本／リヒャルト・ワーグナー
 舞台祝祭劇『ニーベルングの指環』より
 “序章と4つのフィナーレ”

序夜 楽劇「ラインの黄金」(第1場, 第4場)

～休憩15分～

第1日 楽劇「ワルキューレ」(第3幕 第3場)

～休憩15分～

第2日 楽劇「ジークフリート」(第3幕 第3場)

第3日 楽劇「神々の黄昏」(第3幕)

ジークフリートの葬送行進曲(ピアノ独奏)

第3場 “ブリュンヒルデの自己犠牲” 《連弾》

ドイツ語歌唱, 日本語字幕(オペラ対訳プロジェクト), ピアノ伴奏版

2026年5月31日(日) 15:30開演

日本橋劇場(日本橋公会堂4F)

演出・公演監督 福田祥子
 指揮 佐々木 修
 ピアノ 植田克己 (ワルキューレ, ジークフリート, 神々の黄昏)
 畧島啓介 (ラインの黄金, 神々の黄昏)

《ソリスト》

福田祥子	ドラマティックソプラノ	ブリュンヒルデ役	(ワルキューレ, ジークフリート, 神々の黄昏)
又吉秀樹	バリトン	アルベリヒ役	(ラインの黄金)
ジョン・ハオ	バス・バリトン	ヴォータン役	(ラインの黄金, ワルキューレ)
村上敏明	テノール	ジークフリート役	(ジークフリート)
金山京介	テノール	ローゲ役	(ラインの黄金)
寺田功治	バリトン	ドンナー役	(ラインの黄金)
		ハーゲン役	(神々の黄昏)
町村 彰	テノール	フロー役	(ラインの黄金) ジークフリート役アンダー
伊藤いずみ	ソプラノ	ヴォークリンデ役	(ラインの黄金)
渡辺愛理	ソプラノ	ヴェルグンデ役	(ラインの黄金)
窪 瑤子	メゾソプラノ	フロスヒルデ役, フリッカ役	(ラインの黄金)

《スタッフ》

舞台監督／菅野 将

舞台・照明／(株)フルスペック

衣裳／てっしー ヘアメイク／リュクエミール

稽古ピアノ／鈴木架哉子, 松岡なぎさ, 大島由紀子

全席指定／S席:10,000円, A席:7,000円

主催:日本橋オペラ研究会

日本橋オペラ後援企業 (2026年5月1日現在)

